

授業科目名	発達障害教育指導法（１）	単位数	2単位
担当教員名	古川 潔 伊藤一美	担当形態	オムニバス
実務内容 (実務家教員の場合)	中学生フリースクール・通信制高校で教諭として勤務経験のある教員が、通常学級に在籍する発達障害等の特別な支援を必要とする生徒の指導・支援について解説する（古川）。		
「学位授与の方針」との関係 DP2.共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現、等の専門的知見を得ることができる（専門知） DP4.個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけ実践することができる（実践力）			
授業のテーマ及び到達目標 （１）発達障害及びその周辺域にある児童生徒の個人差を認知的個性として包括的に理解し、現場での活用の方法を理解する。 （２）才能教育、個性化教育、特別支援教育も含めた広い視野から、多様なリソースを活用して指導していく方法を理解する。 （３）自立への長期的な見通しと対応、短期的な問題解決の考え方と方法について理解する。			
授業の概要 「認知的個性」という概念を通じて、発達障害の状態にある児童生徒および、環境要因によって発達障害となるリスクのある児童生徒の教育指導について学修する。認知的個性の多様性に対応する幅広い理解や教育支援についての知見を、受講生各自の環境で活かせるようになることを目的とする。 さまざまな環境で参加している他の受講生との対話を通じて学びを深められるよう、アクティブラーニングの手法も用いて実施する。			
授業計画 第1回：認知的個性と発達障害の理解（１）発達障害の定義と状態像の理解 第2回：認知的個性と発達障害の理解（２）児童生徒の理解の手立て 第3回：知能と才能の捉え方 第4回：自己実現欲求と社会性 第5回：通常学級における支援体制 第6回：学習活動の個性化への取り組み（１）カリキュラム・時間割 第7回：学習活動の個性化への取り組み（２）評価・承認 第8回：学習活動の個性化への取り組み（３）集団編成と相互作用 第9回：学習活動の個性化への取り組み（４）個に応じた学習環境づくり 第10回：支援の実際：発達障害を取り巻く社会環境の変化 第11回：支援の実際：生きづらさの背景要因の理解 第12回：支援の実際：発達障害の二次障害 第13回：支援の実際：共感的理解とコミュニケーション 第14回：支援の実際：事例から考える長期的視野の考え方と支援方法 第15回：支援の実際：実践から考える短期的視野の対応の考え方と支援方法			
スクーリングでの学修 授業計画の第1回および第10回～第15回の内容について、事例を通じた実践的な理解を図る。 グループワークについては「氷山モデルで困っている子の背景を考える」活動を予定している。			
テキスト 松村暢隆, 石川裕之, 佐野亮子, 小倉正義 編（2010）『認知的個性：違いが生きる学びと支援』新曜社、978-4788511996			
参考書・参考資料等 武田鉄郎編著（2017）『発達障害の子どもの「できる」を増やす提案・交渉型アプローチ—叱らないけど譲らない支援』学研プラス、978-4058008195			
学生に対する評価 スクーリング評価（25%）、レポート評価（25%）、科目修得試験（50%）			